



平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年7月31日

上場取引所 東

上場会社名 セーレン株式会社

コード番号 3569 URL <http://www.seiren.com>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 川田 達男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 グローバル総務本部長 (氏名) 坪田 敏郎

TEL 0776-35-2111

四半期報告書提出予定日 平成25年8月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	22,855	△3.4	1,035	△18.0	1,211	△8.6	663	△9.3
25年3月期第1四半期	23,648	15.4	1,263	36.5	1,324	23.1	732	10.1

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 3,469百万円 (97.7%) 25年3月期第1四半期 1,754百万円 (51.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	11.16	—
25年3月期第1四半期	12.31	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第1四半期	97,174	53,754	54.7	894.10
25年3月期	94,321	50,762	53.2	844.21

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 53,165百万円 25年3月期 50,198百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	5.00	—	7.50	12.50
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	7.50	—	7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	45,800	△1.2	2,050	△10.3	2,050	△10.1	900	△26.4	15.13
通期	94,500	4.6	5,600	45.4	5,600	25.6	3,100	14.3	52.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	64,633,646 株	25年3月期	64,633,646 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	5,171,132 株	25年3月期	5,171,132 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	59,462,514 株	25年3月期1Q	59,462,529 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は、平成25年7月31日開催の取締役会において、平成25年9月30日を効力発生日として当社の連結子会社である株式会社ナゴヤセーレンを完全子会社とする株式交換を実施することを決定し、同社との間で株式交換契約を締結いたしました。1株当たり(予想)当期純利益につきましては、当該株式交換による株式数の増加を反映した期中平均株式数を基に算定しております。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(四半期連結キャッシュフロー計算書関係)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期における日本経済は、政府の経済・金融政策などにより株価の上昇や円高の是正が進み、企業業績や個人消費が改善に向かい始めました。世界経済では、緩やかな回復を見せる米国経済とは対照的に、停滞し続ける欧州市場や中国経済など、総じて海外景気に対する先行きは未だ不透明な状況です。

当社グループでは、「21世紀型企业への変革!」を中期方針に掲げ、変化し続ける経営環境においても、常にお客様のニーズに応え、かつ安定した収益確保と継続的な企業成長を果たすため、“新規事業の創出”と“グローバル事業の拡大”を柱とした中期事業戦略に取り組んでおります。併せて、生産性向上や業務の効率化・改善、徹底した経費削減による収益力強化を図るとともに、中期事業戦略の遂行に必要な人材育成および組織機能の拡充など、企業体質の強化に注力しております。

当第1四半期の連結業績は、売上高 228 億 55 百万円（前年同期比 3.4%減）、営業利益 10 億 35 百万円（同 18.0%減）、経常利益 12 億 11 百万円（同 8.6%減）、四半期純利益 6 億 63 百万円（同 9.3%減）となりました。なお、期首の業績予想に対する進捗につきましては、当第1四半期は計画通り推移しております。

[セグメント別の業績概況]

(車輛資材事業)

国内事業では、前年のエコカー補助金の反動減と一部北米向け輸出製品の在庫調整の影響を受けて、前年同期比減収となりました。しかし、行きすぎた円高の是正、および整流活動によるコスト削減を進めたことにより利益率がアップし、前年同期比増益を達成いたしました。また、当車輛資材事業の中期戦略商品として開発・拡販を進める高付加価値商品「革を超える新素材 (QUOLE)」がお客様の支持を確実に広げ、受注に繋げることができました。

海外事業では、中国において日本車販売台数が昨年の販売台数にまで回復せず、前年同期比で売上高を落としました。タイでは、市場の需要増を受けて売上高は堅調に推移しましたが、円安の影響により日本向け輸出で減益となりました。海外事業全体では前年同期比増収・増益となりました。

当事業の売上高は 114 億 91 百万円（前年同期比 4.0%減）、営業利益 7 億 79 百万円（同 9.5%増）となりました。

またグローバル事業のさらなる拡大に向け、インドおよびインドネシアにおいて 2013 年後半の生産開始に向けて工場建設を進めております。

(ハイファッション事業)

国内では、百貨店の売上高が回復するなど、市況の一部に回復の動きが見られました。当社グループが展開する「21世紀型事業」の中核であるビスコテックス事業については、多品種・小ロット・短納期を実現する独自技術のビスコテックス生産システムや、素材の機能性と差別化企画を兼ね備えたビスコマテリアル商品が、多様化する消費者ニーズを捉え、前年同期比増収・増益となりました。一方で、従来の繊維加工事業ならびにKBセーレン(株)の衣料資材事業は売上高を落としました。

また、海外子会社の Saha Seiren Co., Ltd. (タイ) において、原糸から製品までの一貫生産による“価格競争力のある差別化商品”の生産を開始いたしましたが、当期においては生産体制立上げにかかる経費が先行しております。

当事業の売上高は 69 億 95 百万円（前年同期比 6.6%減）、営業利益は 86 百万円（同 76.7%減）となりました。

(エレクトロニクス事業)

国内外のエレクトロニクス市場は、新興国メーカーの台頭による価格競争の激化と消費低迷により、厳しい状況が続いております。このような環境のなか当社グループでは、電磁波シールド材「プラット®」およびプラット複合化商品、KBセーレン(株)の高性能導電糸「ペルトロン®」の他、世聯電子(蘇州)有限公司の機械販売が売上高を伸ばし、前年同期比増収・増益となりました。

ビスコテックス・システム販売については、多様化する消費者ニーズへの対応を省資源・省エネルギーで実現する生産システムとして拡販を進めております。

当事業では、繊維を始めとする高分子材料と金属との複合、さらに、インクジェット技術との技術融合など、当社グループの差別化シーズを活かした新商品開発を継続し、新たな価値創造に取り組んでいきます。

当事業の売上高は10億88百万円（前年同期比5.5%増）、営業損失は40百万円（前年同期は営業損失1億12百万円）となりました。

（環境・生活資材事業）

消費増税前の住宅着工戸数の増加に加え、節電や環境意識の向上により、特に住宅に対する省エネ（節電）ニーズは急激な高まりをみせています。このような市況のなか、室内空間を快適にしつつ、かつ高い省エネ効果を実現する遮熱型透湿防水シート「ラミテクト®サーモ」や遮熱型透湿ルーフィング材「ルーフ ラミテクト® RX」を始めとする住宅資材全般は好調に推移し、売上高を伸ばしました。その一方で、健康・介護商品や特殊衣料を含む生活資材において前年同期比で若干の需要減少がありました。

当事業の売上高は16億41百万円（前年同期比0.5%減）、営業利益は1億71百万円（同9.3%減）となりました。

（メディカル事業）

化粧品事業は、ネット販売強化に加え、百貨店での常設売場設置と継続的な催事展開による新規顧客の獲得を進めました。また、卓越した消臭機能を持つアンダーウェアシリーズ「DEOEST®」は、メディア展開を始めとするプロモーションに注力し、大幅に売上高を伸ばしました。

メディカル資材では、KBセーレン(株)の差別化原糸を始めとするグループ一貫機能を活かした医療用基材等の差別化商品が売上高を伸ばしましたが、一部商品の在庫調整があり、前年同期比での減益要因となりました。

当事業の売上高は13億69百万円（前年同期比8.4%増）、営業利益は2億90百万円（同7.6%減）となりました。

（その他の事業）

セーレン商事(株)の保険代理事業ほか、いずれの事業も堅調に推移しました。

当事業の売上高は2億69百万円（前年同期比9.8%増）、営業利益は94百万円（同16.6%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期末における総資産は、受取手形及び売掛金などの流動資産の増加や、設備投資による有形固定資産の増加により、全体で前期末と比較して28億52百万円増加の971億74百万円となりました。負債の部は、短期借入金や賞与引当金などの流動負債の減少により、1億39百万円減少し、434億19百万円となりました。純資産は、為替変動による為替換算調整勘定の増加などにより29億92百万円増加し、537億54百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益12億9百万円、減価償却費10億20百万円などの資金増加要因があり、全体では20億32百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得や定期預金の預入などにより37億53百万円の支出となり、その結果、フリー・キャッシュ・フローは17億20百万円の減少となりました。また、財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済や配当金の支払などにより13億60百万円の支出となりました。これらの結果、現金及び現金同等物は前期末より22億43百万円減少し、当第1四半期末残高は55億94百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の業績につきましては、平成25年5月9日に発表した業績予想を据え置くものとします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,264	8,544
受取手形及び売掛金	20,390	21,397
有価証券	91	130
商品及び製品	7,934	7,870
仕掛品	1,849	2,151
原材料及び貯蔵品	3,200	3,233
その他	2,441	2,142
貸倒引当金	△9	△10
流動資産合計	44,161	45,460
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	21,157	21,327
機械装置及び運搬具(純額)	9,045	9,415
工具、器具及び備品(純額)	346	360
土地	9,626	9,717
その他(純額)	1,220	1,891
有形固定資産合計	41,395	42,711
無形固定資産	1,682	1,830
投資その他の資産		
その他	7,107	7,196
貸倒引当金	△25	△25
投資その他の資産合計	7,082	7,170
固定資産合計	50,159	51,713
資産合計	94,321	97,174
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,318	12,869
短期借入金	7,258	6,243
未払法人税等	381	642
賞与引当金	1,015	493
その他	3,888	4,282
流動負債合計	24,862	24,532
固定負債		
長期借入金	11,758	11,880
役員退職慰労引当金	174	161
退職給付引当金	5,515	5,523
その他	1,248	1,321
固定負債合計	18,696	18,887
負債合計	43,559	43,419

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,520	17,520
資本剰余金	16,838	16,838
利益剰余金	21,207	21,425
自己株式	△4,147	△4,147
株主資本合計	51,418	51,636
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	690	841
為替換算調整勘定	△1,909	687
その他の包括利益累計額合計	△1,219	1,529
少数株主持分	563	589
純資産合計	50,762	53,754
負債純資産合計	94,321	97,174

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	23,648	22,855
売上原価	18,196	17,543
売上総利益	5,451	5,312
販売費及び一般管理費	4,188	4,276
営業利益	1,263	1,035
営業外収益		
受取利息	19	64
受取配当金	33	38
為替差益	0	91
その他	58	41
営業外収益合計	112	235
営業外費用		
支払利息	35	37
その他	14	22
営業外費用合計	50	59
経常利益	1,324	1,211
特別利益		
固定資産売却益	5	1
特別利益合計	5	1
特別損失		
固定資産処分損	3	3
特別損失合計	3	3
税金等調整前四半期純利益	1,327	1,209
法人税等	585	541
少数株主損益調整前四半期純利益	741	668
少数株主利益	9	4
四半期純利益	732	663

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	741	668
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△160	151
為替換算調整勘定	1,173	2,649
その他の包括利益合計	1,013	2,800
四半期包括利益	1,754	3,469
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,716	3,412
少数株主に係る四半期包括利益	38	56

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,327	1,209
減価償却費	1,018	1,020
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△2	0
賞与引当金の増減額(△は減少)	△604	△522
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△34	7
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△0	△12
受取利息及び受取配当金	△53	△102
支払利息	35	37
為替差損益(△は益)	△79	△48
固定資産処分損益(△は益)	△2	1
売上債権の増減額(△は増加)	△960	△533
たな卸資産の増減額(△は増加)	33	164
仕入債務の増減額(△は減少)	370	254
未払消費税等の増減額(△は減少)	△71	△74
その他	456	802
小計	1,432	2,204
利息及び配当金の受取額	53	96
利息の支払額	△40	△40
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△535	△227
営業活動によるキャッシュ・フロー	908	2,032
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△864	△1,163
有形固定資産の売却による収入	5	34
投資有価証券の取得による支出	△448	△7
子会社株式の取得による支出	—	△6
定期預金の純増減額(△は増加)	△414	△2,562
その他	△15	△47
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,736	△3,753
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	95	△1,000
長期借入れによる収入	1,000	1,000
長期借入金の返済による支出	△1,129	△891
配当金の支払額	△297	△445
少数株主への配当金の支払額	△13	△18
その他	△5	△4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△350	△1,360
現金及び現金同等物に係る換算差額	208	837
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△969	△2,243
現金及び現金同等物の期首残高	3,366	7,837
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 2,397	※ 5,594

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項
(四半期連結キャッシュフロー計算書関係)

* 現金及び現金同等物の四半期残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
現金及び預金	2,943百万円	8,544百万円
有価証券	—百万円	130百万円
預入期間が3か月超の定期預金	△546百万円	△3,081百万円
現金及び現金同等物	2,397百万円	5,594百万円

(継続企業の前提に関する注記)
該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車輜資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディカ ル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	11,973	7,485	1,031	1,649	1,263	23,403	245	23,648	—	23,648
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	5	28	—	—	33	107	141	△141	—
計	11,973	7,491	1,059	1,649	1,263	23,437	353	23,790	△141	23,648
セグメント利益又は損 失(△)	712	370	△112	188	314	1,473	80	1,554	△291	1,263

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車輜資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディカ ル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	11,491	6,995	1,088	1,641	1,369	22,586	269	22,855	—	22,855
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	0	64	—	—	64	95	159	△159	—
計	11,491	6,995	1,152	1,641	1,369	22,651	364	23,015	△159	22,855
セグメント利益又は損 失(△)	779	86	△40	171	290	1,287	94	1,381	△345	1,035

(注) 1. 各報告セグメント区分の主な製品等は下記のとおりであります。

- (1) 車輜資材……………自動車・鉄道車輜等内装材(シート材、エアバッグ、加飾部品)
- (2) ハイファッション……………各種衣料製品、衣料用繊維加工
- (3) エレクトロニクス……………ビスコテックス・システム及びサプライ、工業用ワイピングクロス、電子機器
- (4) 環境・生活資材……………建築用資材、インテリア用資材、健康・介護商品、エコ関連資材
- (5) メディカル……………化粧品、浄水器及びフィルター、医療用製品

なお、「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソフトウェアの開発及び販売、保険代理業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用(前第1四半期連結累計期間347百万円、当第1四半期連結累計期間375百万円)が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務部門などの管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。